平成２２年２月の解説（府県天気予報）

【２月の天候状況】

上旬は初めと中頃と終わりに低気圧や気圧の谷の影響で天気が崩れました。特に中頃の低気圧は非常に強い寒気をともない、北日本では大荒れの天気になるとともに顕著な低温になりました。中旬は低気圧が次々に日本付近を通過したため、全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。下旬の前半は全国的に高気圧に覆われ晴れの暖かい日が多くなり、24 日から 25 日には全国的に 2 月の日最高気温の高い記録を更新しました。その後は前線を伴った低気圧の影響で全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北海道の日本海側、オホーツク海側、東北地方と東日本の太平洋側で平年よりかなり少なくなりました。降水量は北日本で平年並みになりましたが、その他の地方は平年より多くなりました。月平均気温は東日本で平年より高く、西日本と南西諸島はかなり高くなりました。

【２月の検証結果】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が 83%で例年(注)と同じで、明後日予報が 79%で例年より１ポイント低くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は東北、北陸、近畿地方で例年より５から７ポイント高く、関東・甲信、沖縄地方でそれぞれ６ポイントと４ポイント低くなりました。明後日予報は関東・甲信、沖縄地方で例年より８ポイント低く、近畿地方で４ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、北海道地方で例年より 0.5℃小さくなった他はほぼ例年並みとなり、全国平均は例年と同じ 1.6℃でした。また、最低気温の予報誤差も全国的にほぼ例年並みとなり、全国平均は例年より 0.1℃小さい 1.5℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【４月の天気予報の利用にあたって】

4 月は比較的気象災害が少ない月ですが、低気圧が発達しながら日本付近を通過するときには強風、大雨など、大荒れの天気になって災害が発生することもあります。また、このような時には、多雪地では雪解けが一層進みますので注意が必要です。低気圧が発達しながら通過して大荒れの天気が予想されるような場合は、気象庁は１～２日前にあらかじめ「大雨と暴風、高波に関する全般気象情報」などを発表します。このようなときには、その後に発表される最新の気象情報を活用して、風の強さや雨の降り方等に注目して下さい。